アルフィエーラに花の咲く

とおこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
アルフィエーラに花の咲く

【Ｎコード】
Ｎ５７９８Ｖ

【作者名】
とおこ

【あらすじ】
両の手に捧げ持った錫杖がしゃらりと鳴り、神によって最も愛された当代の一の巫女は、自らが編んだ『呪』に身を投じ、高貴なる神、主神イデアを召還した。
彼女が自身の『命』のすべてを糧に唱えたそれは、戦いの道具とされた２の神らを吹き飛ばし、更には世界に存在した『魔法』のすべてを無力化し、戦いを終結させた。

０００．　登場人物紹介（ネタバレあり）

（　）は名前を作る時に当てはめた漢字です（物語内では出てきません）

■デイジア／イツコ（何時子）　Ａｇｅ１２
この物語の主人公
アルタロス王に仕える水の巫女

■シエン／コクヨウ（黒曜）　Ａｇｅ　２７
アルタロス王（黒の王）
父親を殺して王位に就き、わずか7年にして最強国を作り上げる

■カイエ／アオイ（蒼衣）　Ａｇｅ１８
ゼニア王（青の王）
前王の死によりわずか１６歳にして王位についた

■ヘキエ（碧会）　Ａｇｅ２０
ルーヴェンブラン王（緑の王）
ゼニアと友好関係を結んでおり、アオイとは幼い頃から仲がいい
風の巫覡

■キーラ　Ａｇｅ２０
ゼニア王の妃
ルーヴェンブランの貴族の娘

■フィラ＝フィーア（故人）
１０００年前の一の巫女
聖王国フレイアの勝利のために主神イデアの召還を行い、その代償

として命を失う

□イデア
主神
聖王国フレイアの守護神
イデアの巫女を一の巫女（いつのみこ）という

□レーヴェ
水の神
ゼニアの守護神

□シュタリア
風の神
ルーヴェンブランの守護神

□フレイア
火の神
スフィアの守護神

□クロノア
地の神
アルタロスの守護神

００１．　古の語り

その世界の名をアルフィエーラといった。
東にゼニア。
西にルーヴェンブラン。
南にスフィア。
北にアルタロス。

そして、中央に聖王国ギドル。

それぞれの国が国の中心に神殿を置き、守護たる神の加護の下、人々は平和で豊かな日々を送っていた。
が、やがて、その均衡は崩れる。
スフィアとアルタロスが組み、聖王国ギドルへと戦いを仕掛けた。
戦いは多くの人の命を奪い、悲しみや怒り、憎しみを生み出していく。

その戦いは、ある時転換点を迎えた。
スフィアの巫女とアルタロスの巫女は、自らの王の命に従い、それぞれの守護たる神、フレイアとクロノア、そしてその下に在る眷属を召還し、以後、戦いは人だけのものではなくなった。
２つの国の王が組んでまで欲したのはギドルの豊かな国土であり、その繁栄の守護たる神の存在だった。
聖王国ギドル、その加護をするは主神イデア。全能神とも呼ばれる神の力は巨大で、故にギドルは常に世界の中心にあった。
２つの国の王は聖王の地位を狙った。
やがて、仲たがいが始まるというは必然だったが、聖王家を引き摺り下ろすという同じ目的の元、彼らは手段を選ばなかった。

巫女に召還された神は、意に沿わぬ戦いながらも人に手を貸した。
フレイアが吐き出した炎により豊かな土地は焼き尽くされ、クロノアの立つ場所を中心に大地は揺れた。
それに対したギドルはよく戦った。
が、人の力だけで神に勝てるはずもない、劣勢、おそらく次の夜は越えられないというほどに追い詰められた聖王家は一族の終わりを覚悟した。
が、彼らにはもう一つ、選択が残されていた。
聖王国ギドル、その守護たる神、主神イデアの巫女を一の巫女（いつのみこ）という。

『巫女様…！』
『大丈夫、私のことは気にするな』

そう言って緩く笑んだ時の巫女は外側から扉を閉じさせ、部屋の中央に立った。
そして、膝をつき、淡い光を帯びる一筋に指を這わせる。
うつむいた頬に一筋の涙が伝い、まるでそれだけがすべてのように一つの名を呼ぶ。
それは当然なのか、或いは罪なのか。
どちらでもなく、どちらでもあるそれらを同時に意識しながら彼女は自らの道を選ぶ。
しばらくそうしていた彼女は立ち上がり、無感情な視線を彼女の立つ、魔方陣を見る。
その視線を最後、閉ざされた扉へと向け、やがて、すべてを断ち切るように目を閉じる。

両の手に捧げ持った錫杖がしゃらりと鳴った。

（どうか私に力をお貸しくださいませ）

『最期に、貴方様にお会いできて嬉しゅうございしたわ』
『私はそんなことを望んでいない』
『ですが私は、一の巫女です』
『フィラ＝フィーア！』
『その名はとうの昔に捨てたものです、陛下』

（私は、この国のためではなく、ただの1人の方のために貴方の力を望むのです）

両の手に捧げ持った錫杖がしゃらりと鳴り、神によって最も愛された当代の一の巫女は、自らが編んだ『呪』に身を投じ、高貴なる神、主神イデアを召還した。
彼女が自身の『命』のすべてを糧に唱えたそれは、戦いの道具とされた2の神らを吹き飛ばし、更には世界に存在した『魔法』のすべてを無力化し、戦いを終結させた。
結果、明日の命であった聖王国ギドルは勝利を手にし、スフィアとアルタロスは散々な状況の元、降伏した。
勝利の代償は巫女、『呪』に自らの血肉を与えた彼女には、血の1滴さえも残ることはなかった。

そして『神』は世界から目を背けた。

否、或いは、『神』によって為された凄惨な大地の姿に畏怖し、憎しみさえもを抱いた人間の方が拒んだのかもしれない。
巫女との対話に応じることもなく、彼らが与える恩寵である『魔法』もまた、失われた。
永い、永い、けれど決して神にとっては長くはない時間、人々は過酷な大地に生きることを余儀なくされた。
その間、一の巫女によって勝利を得た聖王国ギドルが大陸のすべてを統べる時代がしばらく続き、やがて、再び分裂をした。

１０００年の後、世界には8つの国が存在する。
そのうちの４つは、１０００年前より存在をした古王国であり、他の４つは古王国から分裂をして作られた国である。
聖王国ギドルの名は既に存在せず、かつて聖王宮のあった場所は古王国アルタロスの支配にある。
何の皮肉か。
古の戦いで降伏したアルタロスはしぶとく生き残り、後にギドルを滅ぼすことに成功したのだ。

神は何処に存在する。
神は此処に。
お前の立つ、此の大地にこそ存在する。

失われた神の力は、少しずつ、少しずつ、人の手に取り戻された。
人が再び『魔法』を操るようになり、巫女の声に守護たる神やその眷属が応じた。

ただ、失う前よりずっとそれに適う者は少なく、力を手にした子らは、時の権力者により利用される宿命を背負うこととなる。
また。
主神イデアは変わらず世界に背を向けていた。
自身の愛し子たる一の巫女の血肉を糧に、自らの愛する世界を踏み躙ってしまった神の嘆きは深く、聖王国ギドルの滅亡の時にあってもそれは変わらなかった。

そして、更に時が流れた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5798v/

アルフィエーラに花の咲く

2011年11月12日01時59分発行